

鶴からの手紙

真鶴中学校だより 第二〇九号

2019.10.2
責任者
平田 渉

総合的な学習の時間

九月一二日(木)に総合的な学習の時間として、一年『職場見学』二年『職場体験学習』三年『真鶴への提案』をテーマに校外体験学習を実施しました。

一年『職場見学』

旅館の仕事について学びました。おすすめの魚をお客さんに紹介したりするだけではなく、掃除や部屋の準備など、やることはたくさんありました。こんなに多くのことを一人でやっつていくのは、本当に大変です。いいことだなと思いました。

また、「おはようございます」「はい」「すみません」「わたしが



します」「おかげさまです」などの言葉や思う心の大切さを教わりました。

NPOの仕事や目的について学びました。多くの方に海やその生態系を理解してもらおうを通して、いつまでもこの海と暮らしていける社会の構築を目指して活動していることなどです。また、ポスターを飾ったりするなど、本業以外にもやらなければならぬことがたくさんあることを感じました。

来年は『職場見学』から『職場体験学習』に変わるので、学んだことを生かしていきたいです。

石材業の仕事を見学しました。はじめに「すみません」と声をかけたのですが、その声に気づかないほど集中して仕事に取り組んでいました。仕事への思いの強さを感じま

した。また、見学をとおして、楽しいこともつらいこともあるけれど、自分の「仕事をやりたい」という強い気持ちのもと、社会のために何ができるかということを考えていくことが大切だということについて考えました。

観光協会の仕事について見学したり、話を伺ったりしました。知っているようで知らない真鶴のことがたくさんあり、観光協会では話を聞いただけで、真鶴のことを詳しくなれた気がしました。さらに真鶴のことに詳しくなると、来年の『職場体験学習』では、観光協会で働いてみたいです。

二年『職場体験学習』

私は、前にパティシエになりたいなと思ったことがあったけど、一回その夢をあきらめていました。今回洋菓子店に行つてケーキを作っているところを見たり、少し手伝わせてもらったりしたら、またパティシエになりたいと思うようになりました。普段体験できないこともいろいろ体験させてもらいました。今

回学んだことを生かして、さらに深く勉強していきたいです。

『職場体験学習』では、自動車の修理工場で学んできました。自動車のタイヤに空気を入れたり、自動車のナンバーについてまとめたりして、楽しく体験学習を進めることができました。また、坂で自動車の試運転をして、ブレーキのきき具合を確認するなども貴重な体験をさせてもらいました。

三年『真鶴への提案』

私は、コミュニティ真鶴で話を伺いました。当日、話を伺うまでは、何をやっていてどんな活動をしているのか分からなかったけれど、「美の基準」にそって立てられた建物であることや、コミュニティ真鶴が町の中で果たしている役割などについて学ぶことができました。

真鶴といったら「魚」で「漁業」という仕事が真鶴の代表産業であり、真鶴にはなくてはならないものだ



と想っていたけれど、いろいろな面から追いつめられ、続かないかもしれないという時期があったことを知り、すごく危機感を感じました。今回、いろいろ質問させてもらうことで、知ったことが多く、貴重な機会となりました。真鶴の「漁業」や「よさ」を守っていききたいです。

いろいろな世代を取り込み、真鶴を活性化させたいという強い思いをインタビューの中から感じました。「なかったら、作ってしまえばいい」というアイデアは、今まで僕の中にはありませんでした。こうしたことが言える、こうしたアイデアが浮かぶ仕事をしたいと思いました。

総合的な学習の時間の取組は、一〇月一八日(金)に開催する「学習活動発表会」で、ステージや展示発表をします。どの学年も、その発表に向けて準備を進めています。



いのちの大切さを学ぶ教室

小田原警察署及び NPO 法人神奈川県被害者支援センターのみなさまにご協力いただき、「いのちの大切さを学ぶ教室」を実施しました。次世代を担っていく中学生に「命の大切さ」について考え、自分の命を大切にすることはもとより、他人の命も大切にすることの必要を改めて感じてもらうことで、「被害者も加害者も出さないまちづくり」を実現させていくことを目的とする講習会でした。

一年
●講習会後のアンケートから

◇はじめに聞いた、「犯人は、したことはすぐ忘れるけれど、被害者の心にはずっと残っている」という言葉が心に響きました。加害者には罪の重さと自制心をもっと知ってほしいと思いました。
◇相手の気持ちを考えずに人を傷つける加害者の気持ちですが、私にはよくわからなかったです。また、動画をみて、とても悲しい気持ちになりました。

◇普段の何気ないことで、加害者側になってしまったこともあるのかなあと思い、怖いことだなあと思いました。そのためにも講師の方の話されていたように、「想像力」を働かせて生活していきたいです。

二年

◇犯罪は思っていたより身近で恐怖感を覚えました。また、犯罪をする人も被害に遭う人も特別変わった人ではなく、自分と変わらないような人であるということは、分かっていようで分かっていなかったです。ちよつと立ち止まってしまうこと、さしおぼること、そばにいてあげることが大切で大きな力になると思いました。

◇きれいな紙をグチャグチャにするのと、そのあと紙を広げても、折れた線が残り、なかなかもとのきれいな紙にはもどりません。私たちの心もこのことと同じであることを教えてもらい深く考えることができました。自分の近くにはいつも踏み越えてはいけない「一本の線」があるということを忘れ

ず、どんな場合でもその線を越えないことが大切だと思いました。いらない命なんてないんだということを改めて学び考えることができました。

三年

◇私は、つらいとき、悲しいとき、悩んでいるとき、自分から人に相談したりすることは、得意ではありません。でも私がつらいときなどは周りの友達とその気持ちをまぎらわしてくれれます。そんな友達にそばにいてくれることは、本当にありがたいし、いてくれるおかげで毎日が楽しいです。でも、そんな人が周りにいらず、とてもつらい思いをしている人に少しづつでも寄り添ってあげたいなと思いました。

◇自分と同じような年齢の人で、どうしてあんなことに…と悔しい気持ちです。犯罪に巻き込まれてしまう人は自分たちと同じように普通に暮らしている人だということも悲しいことです。みんなが心に余裕を持って生活していくことが大切だと思いました。